

6 病理学

6.1 病理学の基本的な用語整理

1) 細胞の構造・退行性変化…細胞や組織の機能低下や消失を特徴とする変化

[]: 細胞が傷害される過程において、細胞や組織に異常な物質が出現したり、生理的に存在する物質が大量に蓄積する現象

⇒ 顆粒変性, 水腫変性, 空胞変性, 硝子変性, 硝子滴変性, フィブリノイド変性, 角質変性, 粘液変性など

[]: 正常に発生した器官や組織において、細胞数や細胞容量が減少することで起こる変化

⇒ 原因により, ①生理的萎縮, ②栄養障害性萎縮, ③神経性萎縮, ④圧迫性萎縮, ⑤不使用性萎縮, ⑥内分泌性萎縮, ⑦貧血性萎縮に分類される。

[]: 生体における細胞や組織の病的な死で、一般に細胞質の膨化や破裂をおこし、周囲に炎症反応が見られる

⇒ 形態的な特徴により [] と [] に分類される。

※凝固壊死(乾酪壊死)は、壊死部が固くなるタイプの壊死で、液化壊死(融解壊死)は、特に

[] で多く見られ, [] と呼ばれる。

[]: 生理学的にプログラムされた細胞死で、細胞の縮小と核の断片化を特徴とする。基本的には炎症反応は起こらない。

2) 進行性変化…組織がストレスや傷害に対してその形態を変化させて適応しようとした結果生じる変化

[]: 個々の細胞の容量が大きくなることにより組織が大きくなる現象

[]: 細胞数の増加により組織が大きくなる現象

[]: 何らかの原因で欠損した細胞や組織がもとの細胞や組織に復元されること

[]: ある組織が刺激により他の組織に変化すること

6 病理学

6.1 病理学の基本的な用語整理

3) 循環障害…循環の異常により組織に発生する変化

- ① []:[]の過剰な供給により, 末梢組織の血液が増加した状態
- ② []:[]の供給不全によって, 末梢組織の血液が減少した状態
※特に[]では短時間の虚血により神経細胞死が起こる
- ③ []:組織からの[]の血流停滞により, 末梢組織の血液が増加した状態
※慢性化すると血管から組織に血漿成分が漏出して[]が起こる
- ④ []:血管の破綻により血管外に血球成分が流出する現象
※組織内で出血が起こり, 血管外に血液が貯留した病変を[]という

- ⑤ []…重度の刺激により急速に[]が減少した結果、末梢組織において、重篤な循環障害が起こる
⇒組織の[]により組織障害が起こる

【症状】

【原因】

- ① []:大量出血に伴う循環血液量低下
 - ② []:心臓の機能不全により心拍出量が低下
 - ③ []:細菌感染による…[]ともいう
 - ④ []:神経反射により心拍出量低下、血圧低下
 - ⑤ []:ワクチンや薬剤などに対するアレルギー反応
- ⑥ []…全身の微小血管内に多数の血栓が形成された状態
※血液凝固に必要な凝固因子が大量に使用された結果、血液凝固因子が枯渇する→出血しやすくなる

6 病理学

6.1 病理学の基本的な用語整理

4) 代謝異常 ⇒ 代謝の異常により様々な色素物質が蓄積する

- ① []…赤血球に含まれる赤色の色素(分子内に[]を含む)
- ② []…うっ血などに伴いマクロファージが赤血球を処理した後にみられる
- ③ []…胆汁に含まれる色素で、[]に際に組織に沈着する

- ④ []…肝臓で代謝される蛍光色素で、沈着した皮膚に紫外線が当たると []が起こる
- ⑤ []…[]により産生される黒色の色素
慢性化した皮膚病で沈着する→色素沈着



6.2 炎症

→生体外から加わる刺激(物理刺激や微生物など)に対して免疫系が働くことで起こる生体の反応

- ・炎症…[]と[]に大きく分けられる
- ・炎症は原因や集まってくる炎症細胞の種類により様々な形態をとる

例) 漿液性炎症(カタル性炎症)、線維素性炎症、出血性炎症、化膿性炎症、壊死性炎症、増殖性炎症、肉芽腫性炎症など

★炎症の5大徴候

6 病理学

6.3 腫瘍学

(1) 腫瘍の命名法

- ・ 腫瘍の名称は一般的には、発生組織の後に「●●腫」とつける
- ・ 悪性腫瘍の場合
 - 上皮性腫瘍は「●●[]」
 - 非上皮性腫瘍は「●●[]」

例)

- ・ 例外:

(2) 悪性腫瘍の特徴

★腫瘍の特徴

- ・[]
- ・過剰な増殖により[]を伴う
- ・手術で摘出しても[]を繰り返す
- ・[]
- ・細胞の[]を認める(核の大小不同, 核分裂像など)